



1 保育所における自己評価の記録

月	自己評価
4月	○園経営計画の作成 ○本年度の重点目標の設定（評価計画） ○園評価項目・指標の設定 ○職員への園経営計画・園評価計画の説明と共通理解 ○保護者への園評価の説明
8月	○中間報告の実施（職員の自己評価・園の自己評価）
9月	○設置者への中間評価の報告・改善策の検討
11月	○保護者アンケートの実施（11月25日）
1月	○アンケートの集計・分析
2月	○最終評価の実施（職員の自己評価・園の自己評価） ○保護者・設置者への報告 ○改善策の検討

2 評価結果

・総括的な自己評価結果について

〈成果〉

① 【保育・教育活動の充実に関する項目】

子どもは遊びによって成長するので、体を使った遊びは日々の活動の中で大切にしてきた。発達に応じた遊びを取り入れ保育者も子どもの遊びと一緒に入り、楽しさを共有できた。

記録をもとに職員会で情報を共有し、保育の振り返りを行うことができた。子どもへの理解につながり、保育の見直しや、次への課題がみえてきた。

② 【職員の育成・資質向上や運営に関する項目】

保育内容や取り組み等、保護者が読みたくなる内容や紙面を工夫しながら情報を発信することができた。

行事には、ねらいや目的を持って取り組み、それぞれの役割を分掌し責任をもって遂行する事ができた。

③ 【地域に開かれた園づくりに関する項目】

保育所での様子を伝えるとともに保護者の思いや相談を聞く場をもち信頼関係を作ってきた。懇談会やアンケートの結果から保護者の願いを知ることができた。

〈課題・改善策〉

① 保育・教育活動の充実

「園評価アンケート」から、子どもが自ら意欲的に遊び、楽しく遊びを展開させるためには、子どもがやりたい遊び・活動（ままごと遊び、こま回し、縄跳び、描画、絵本を読むなど）を主体的かつ自由に選択できる環境の設定、工夫が必要であるという課題が見えてきた。

保育者も子どもと一緒に遊んで楽しさを共有しながら、その時々子ども自身がやろうとする好きな遊び・活動を理解し、夢中になって遊ぶことができる環境構成を工夫し、遊びの楽しさを味わわせていきたい。

② 職員の育成・資質向上や運営

保育内容（描画活動）について意見があった。保育内容について理解を得られるためには、研修会に参加し学習する機会を持つなど、保育者の資質向上に向けて取り組む必要がある。

保護者に保育のねらいや目的を伝える時には、事前に職員間で十分な話し合いや学習をして確認するように努める。また、子どもの育ちや保育への理解を深める機会をつくるためには、保護者と共に講演会を聞くなど研修の機会を持つ。

③ 地域に開かれた園づくり

地域に開かれた園づくりに向けては、「園評価アンケート」を通じて寄せられた保育所に対する指摘や要望をしっかりと受け止め、職員間で課題を共有して改善に取り組む。

「園評価アンケート」から見えてくる保護者の思いや願いについて、日々の保育に照らし合わせながら振り返ることによって理解を深める。そこから見えてきた課題を全職員で共有するとともに、課題解決に向けた改善策を具体化し、より良い保育となるように取り組んでいく。

園評価

(赤野保育所)

経営の柱	今年度の重点目標	評価項目	評価指標と評価結果				分析・考察
			取組指標	結果	成果指標	結果	
☆保育・教育活動の充実	身近な環境と関わる中で豊かな心と丈夫な身体を育てる	「指導内容・方法」 体を使った遊びを十分にする	4 保育者も一緒に遊びながら楽しさを共有したり伝えたりする	3	4 室内や戸外で進んで体を使った遊びをしようとする子ども	3	日々の活動の中で体を使った遊びに取り組むことができた。 子ども達が意欲的に遊べる内容を考え保育者も一緒に遊び楽しさを共有してきた。 リズム運動を保育の中に位置付け計画的に実践する事ができた。
		3 子どもが自ら関わるような環境の工夫をする	3 60%以上				
2 成長や季節を考慮した遊びを指導計画の中に位置付ける	2 50%以上						
1 体を使った遊びを意識して取り入れる	1 50%未満						
		「指導計画」 保育の記録と振り返り	4 記録をもとに職員会等で報告・情報提供し、保育に生かす	3.25	4記録を振り返り、保育に活かされた職員 90%以上	3.25	記録を取ることで改善点や次への課題がみえてきた。 話をする機会をもち、気が付いたことは、職員間で共有し繋げていった。 記録の取り方を工夫し効率化できた。 記録を振り返る時間を確保することについては今後の課題である。
3 気が付いた事を各自が記録する	3 75%以上						
2 記録の取り方を工夫する	2 50%以上						
1 記録を振り返る時間を確保する	1 50%未満						
◆職員の育成・資質向上や運営	共通課題に向かう職員の協力体制づくり	「情報」 園に関する様々な情報を発信する	4 保護者にアンケートを出し改善する	3.25	4研修内容を話し合い、保育の実践に活かしたい 75%以上	3	保育内容や取り組みのねらい等、お便りや連絡帳を活用して情報を提供してきたがきちんと伝わっていたかが今後の課題であり、さらに工夫していく必要がある。
		3 行事の便りを発信する	3 65%以上				
2 園・クラス便りを発行する	2 50%以上						
1 保育内容を話す	1 50%未満						
		「園務分掌」 園務分掌・分掌事務について職員の話し合い	4 月3回以上	2.75	4園全体の事を考えながら、担当分掌を責任をもって遂行し改善や新たなアイデアをだせた	3	行事のねらいや目的を職員間で共有し、担当分掌を責任をもって遂行することができた。 新たなアイデアをもって改善に向けた意見を発信する事が今後の課題である。
3 月2回以上	3園の運営について自分の事として常に考え、職員会等においても建設的な発言ができるようになった						
2 月1回以上	2担当した業務について振り返り不十分な点を改善したり、職員会等で報告したりする						
1 行事の	1自分の役割を自覚できるようになった						
◎地域に開かれた園づくり	保護者から信頼される保育所づくり	[保護者との連携] 子どもの育ちや保育への理解を深める	4 必要に応じて、面談を行う	3.5	4 子育ての相談をしてくれる保護者 75%以上	3	個別に面談を行い、子どもの姿を丁寧に伝えてきた。 送迎の際には、子どもの保育の様子を伝えながら、家庭での様子も含め子どもを中心とした話しをする中で、保護者との信頼関係を作ってきた。 クラス懇談会 お便りの返信などで保護者の思いを聞き悩みや意見に答えてきた。
		3 子どもの様子や子育てについて連携・共有できる機会を設ける	3 65%以上				
2 保育の情報をわかりやすく発信する	2 50%以上						
1 登降所時に子どもを中心とした話をする	1 50%未満						
		「小学校との連携」 計画的に連携し相互理解する	4 保小連絡会や支援ミーティング等を通して情報交換する	3	4 お互いの学びを自分の保育に意識して取り組んだ保育者 80%以上	2.75	小学校を訪問したり保育所に来てもらって子どもの姿を見てもらった機会をつくることができた。 連絡会や支援ミーティングで子どもの様子を共有する事ができた。
3 保育所訪問や日頃の保育生活・遊びを通して情報交換をする	3 70%以上						
2 行事に参加し園児・児童交流を図る	2 50%以上						
1 園だよりで、日頃の保育生活や遊びの情報を発信する	1 50%未満						